

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地8		
自己評価作成日	令和7年10月10日	評価結果市町村受理日	令和 8年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_kani=true&JiyosyoCd=2171000454-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で、地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを感じ心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームのほかにも看護小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所者生活介護など、各施設と連携を取りながら、入所者様やご家族の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人社団は、医院及び施設や様々な介護サービスを運営しており、連携しながら利用者の状態に合わせた支援を行なっている。敷地内には法人運営のカフェもあり、利用者もお茶を楽しんでいる。今回、全職員で自己評価に取り組み、地域密着型サービス事業所としての意識付けを確かなものとし、一丸となって安心安全な利用者サービスの提供に努めている。職員が笑顔で支援しており、利用者の表情も明るく穏やかである。理念の共有及び実践が適切に行われている事業所であり、人材育成にも尽力し職員の定着率も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見えるところに理念を掲示し、利用者様が安全に笑顔で生活できるよう支援に努めている	法人理念は、玄関や事務所の目に付く所に掲示している。また、職員の給与明細袋にも印刷されており、常に意識しながら支援に取り組んでいる。管理者と職員は、利用者の笑顔を見るたびに、理念に沿った支援を行なえていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の駐車場で盆踊り、園児のお遊戯などを行い交流している。急なときでも対応していただいている美容院にもお世話になっている。	重要事項説明書にも地域との連携について明記しており、毎年、事業所の駐車場で盆踊りを開催したり、園児の訪問や住民の介護相談にも対応している。積極的に交流してきたことで、地域と良好な関係を維持している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で行われたことをケア会議で共有しサービス向上に努めている。	運営推進会議は法人施設合同で行い、事業所ごとに現状報告と意見交換を行なっている。家族代表等も参加している。自治会長から、災害対策についての質問があり、耐震構造である事や、ハザードマップ、避難訓練について説明している。	合同開催であるため、事業所個々の記録が少なく、家族には分かり難いと思われる。意見交換内容は、詳細な記録を残される事が望ましい。また、時には違う立場からの意見が聞けるよう駐在所や地域関係者の参加にも期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市の担当者と情報、意見交換を行い連携に努めている。	ケアマネジャーが市の会議に出席し、情報を持ち帰っている。疑問や不明点があれば市の窓口に出向いたり、電話等で助言や情報を得ている。助成金や制度改正については、法人本部が市と連携を図り、事業所も情報を共有している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを基本に目指して勉強会を行い、理解し取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会及び、研修会を定期的に開催している。議事録を回覧し職員に内容を周知している。現在、拘束が必要な利用者はないが、行動を予測し、拘束に繋がらないようケアに取り組んでいる。玄関は防犯上施錠しているが、外に出たい人には職員が付き添い、見守っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い共有し、職員間で防止に努めている。	定期的に虐待防止検討委員会、研修会を開催している。「虐待の芽チェックリスト」にて、自身を含めてホーム全体での利用者ケアを振り返っている。不適切ケアに繋がらないよう、職員同士で協力し合っている。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解はまちまちであるが、介護支援専門員の資格や、社会福祉士の資格保持者は理解し、必要であれば活用できる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、利用開始前に介護支援専門員がご家族・利用者との面談を通じて、十分な説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際に様子をお伝えし、要望等は職員間で話し合い、苑だよりや毎月1回のお手紙で近況報告している。	法人の「苑便り」やホーム便りは、写真付きで活動の様子を伝えている。家族宛ての手書きメッセージや献立表は、家族の安心に繋がっている。家族の意見や要望等には真摯に対応し、納得いく説明を行いながら運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるケア会議で職員の意見や提案を交換している。またそこで出た意見は、同じく月一回開かれる責任者会議にて運営に反映させている。	管理者も常に現場に入り、職員の苦労や思いを受け止め、信頼関係も出来ている。毎月のケア会議での意見や提案は、責任者会議に挙げて検討し運営に活かしている。ハラスメント研修を取り入れ、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の職員の生活に合わせた勤務状況になっている。	有給、産休、育休等の休暇取得支援がある。休憩時間、休憩場所の確保等、職場環境を整備し、ユースエール企業にも認定されている。人手不足の課題はあるが、職員個々のワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、シフト調整を行なっている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員にあったスキルアップを目指し勉強会・研修会を設けている。	年間研修計画があり、技能実習生を含めて、全ての職員に研修機会を提供している。研修後のレポート提出は必須とし、外部研修で得た知識を共有している。技能実習生には寮を用意し、新任職員共にOJTを通じて、人材育成に取り組んでいる。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各協議会主催の勉強会や、近隣施設との交流をつうじて、情報収集・サービス改善に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する際は、生活・人生は人によって異なり、それぞれに役割、性格、価値観があることを理解したうえで、利用者様同士がコミュニケーションをとれるよう支援している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援時に利用者様の希みを聞いたり、意思疎通ができない方は日々の表情・反応に気を付け、家族様からの要望・情報をケアマネ中心に収集に努め共有している。	利用者との会話の中で、思いや希望を把握している。把握した内容は生活管理ノートに記録し、計画作成者に報告、本人本位の支援に繋げている。帰宅願望が強い場合は、さらに利用者の声を聞き、ホームの暮らしが居心地良いと感じられるよう、声かけしながら、より良い支援ができるよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望を伺い、医師、介護士、看護師、栄養士等の意見を集約し、介護計画を作成している。	ケアマネジャーは、本人と家族、職員や医師、看護師、栄養士等、多職種から意見を聞き、課題を洗い出しながら、介護計画を作成している。また、生活管理ノートの記録も参考にし、介護計画作りに活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が個別記録、申し送りノートや、生活管理シート、業務日誌で情報を把握し共有している。	日々の利用者の様子は生活管理ノートに記録し、特筆すべき内容は業務日誌にも記載している。全職員が目を通し情報を共有している。ケア記録と介護計画書が連動しており、課題が見つかった場合は、計画の見直しにつなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態にあわせ家族様との面会や外出、または買い物の代行などを行っている。	個別の外出希望は送迎料が発生するが、適切に対応している。近隣住民が法人医院からの勧めで介護相談に訪れる事もある。町の国際交流協会の活動に法人として参加、餅つき交流会を行うなど、特定技能実習生と住民が交流することが出来ている。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本事業所が町内中心部にあり、商店街や地域住民などのインフォーマルなサービスを活用することで、豊かな暮らしを営めるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様、本人様の希みを大切に、かかりつけ医と相談し適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医の選択が可能である事を説明している。ほとんどの利用者が法人医院の月2回の往診を受け、結果はケアマネジャーが家族に説明している。法人医院と協力医、かかりつけ医が連携し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリー、紹介状をもち同行し、医療機関と情報を共有している。退院時も病院から情報を聞き協力をいただいている。	入院の際には看護師がサマリーを作成し医療機関に利用者の情報を提供している。長期入院の場合は、法人のショートステイや小規模多機能型サービスを利用しながら空きを待ち、ホームに戻れるよう連携しながら支援を行なっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には重度化した場合の説明を行っている。重度化した場合は、家族様の意向を聞き主治医・職員連携しケアを行っている。	入居時に、重度化や終末期の対応について家族に説明し、定期的に意向の再確認を行っている。全職員対象の看取り研修を実施し、マニュアルも整備している。看取り期での心構えや、具体的な支援方法を学んでいる。同法人の他事業所からのサポート体制もある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急心肺蘇生研修や、BCPなど様々な研修を行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と協同し災害訓練・避難訓練を行い把握している。またBCPにおいて、近隣施設と連携し訓練を行っている。	災害対策マニュアルがあり、定期的に備蓄品を整備している。毎年9月に自治会と防災会議を開催し、法人施設の状況を説明している。炊き出しを法人合同で行い、夜間想定での訓練には、夜勤者が中心となって実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の性格を理解した言葉かけを心がけている	職員は接遇研修での学びを常に意識し、ケアに取り組んでいる。特に、入浴・排泄介助は、利用者個々の習慣や羞恥心にも配慮するよう心がけている。年1回、不適切ケアチェックシートで職員自らのケアを振り返り、理念に沿った支援に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声に耳を傾け、日常会話の何気ない一言から思いをくみ取り、自己決定できるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりを尊重し、希望を聞きながら日々の生活を送れるように支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを書いていたいたり、机を拭いていただいている。季節に合わせた料理を提供している。	法人の栄養士が昼食・夕食の献立を作っている。業者や地元商店から食材を調達し、法人の厨房で調理した食事を提供している。朝食は職員が調理している。コロナ禍は黙食を励行し、今も食べることに集中した静かな食事時間となっている。誕生日会は、特別なおやつを提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に栄養、水分量をチェックし、咀嚼・嚥下機能を評価しながら、管理栄養士を中心に支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様に合わせた口腔ケアを行っている	毎食後の歯磨きは、居室の洗面台で行っている。介助が必要な利用者には職員が支援し、夜間は義歯を消毒、事業所で管理している。治療が必要な時は家族に相談し、受診につなげるなど、利用者の口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄介助や声掛けを行っている。また、排泄については食事や、薬など、様々方面からの検討も必要であることから、こちらも多職種で検討しながら支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日については決めてあるが、その日の状態や希望に合わせて変更なども行っている、また、入浴剤や季節に応じたお風呂の日を作り、変化を楽しんでいただいている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう温度調節や寝具に気を付けている。一人一人の生活習慣を尊重し、休みたいときには短時間の昼寝をしていただくなどの支援も行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった場合、看護師や処方記録を確認しながら把握している。	看護師が薬剤情報を確認、薬を仕分けし、夜勤者が当日の薬をケースに入れている。担当職員が氏名・日時を確認、利用者が飲み込むまで見届ける一連の作業で誤薬を防いでいる。処方薬変更は申し送りノートに記録し、利用者の体調を観察している。変化時は看護師に連絡し医師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、パズル、洗濯物たたみなど、得意なことをやっていただいたり、外気浴等で気分転換を行っている。	コロナ禍以降、イベント開催が困難となり、リビングで塗り絵やパズルなど、各自好きな事を楽しめるよう支援している。掃除や洗濯物たたみを率先して行う人、職員の声かけで作業を手伝う人もあり、出来る事で役割りを担えるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩、月一回のコスモスカフェ、家族様との外出も行っている。	神社まで散歩したり、近くの商店での買い物に同行している。また、法人運営の喫茶店は、月1回無料で利用ができ、出かけている。法人の敷地は広く、敷地内の実のなる花木を眺めたり、外気浴をしながら季節を感じる事が出来る。	担当者から家族宛てのメッセージには、散歩の様子も書いて伝えているが、事業所の外出支援の取り組みが、十分伝わっていない家族もある。家族の望む外出支援と利用者本人の望みを受け止める支援にも期待したい。

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため預り金を事務所で保管している。日用品や利用者様の要望品を職員が購入しお渡ししている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙のやり取りに関しては自由にさせていただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節の作品を飾ったり、行事ごとの写真を展示し、いつでも見れるように工夫している。	共有空間は広く、清潔で整理整頓が行き届いている。昼間は、2ユニットの利用者がリビングに集まり、気の合う利用者同士で少人数に別れ、好きな場所で過ごしている。機械浴、リフト浴等もあり、利用者の状態に合わせて支援している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士がトラブルにならず穏やかに過ごしていただけるように、席などもケア会議等で検討している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や作品を飾ったり、使い慣れた家具を置いたり、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な箇所を把握し、障害物を除去し安全に過ごしていただけるよう努めている。一人一人ができること、わかることを把握し、自立した生活が送れるよう支援している。		